

---

領域名：地域保健看護

報告者：牧内 忍

---

教育及び実践の課題

---

地域保健看護領域では、実習での学びを深めることを目的に、講義・演習で配布した資料の一部を教員が指定して学生が資料集を準備し、実習で活用するよう指導している。これらは実習で役立っているが、学生の主体的な学びをフィードバックし、習得状況の評価に用いるまでの内容には至っていない。これは、ラーニングポートフォリオというよりもティーチングポートフォリオに近い利用方法であり、今後、主体的な学びを促すツールとして、資料の名称を含め検討していく必要がある。

---

活用した論文の概要

---

活用した論文は、2つのコンピテンシーの枠組み（ベナーの臨床能力の評価基準とミラーの臨床アセスメントの枠組み）を用いて、イギリスの公衆衛生看護師 SCPHN（Specialist Community Public Health Nurses）のためのコースの一部に活用するため、「オールウェールズ臨床ポートフォリオ」を開発し、実践した結果を示したものである。

パート1に学生の自己評価、行動計画、達成すべき臨床学習の成果、達成すべき臨床実践のスキル、学生の進捗状況報告、および公衆衛生の配置記録が含まれ、パート2に実践の統合について記録され、実践教員が学生の実践適性を検証する形式となっている。結論として、二つのフレームワークは臨床の看護師のアセスメントも可能であり、自信をつけさせ、自信のある有能なベテラン実践者へと彼らを向上させる潜在性を持っていると述べている。

---

教育及び実践への活用

---

本学4年次の「地域保健看護実習II」で持参する資料として、教科書（公衆衛生看護学.jp）とともに「地域ポートフォリオ」を位置づけている。これまでの講義・演習等での学びを実習でも活かせるように、教員からもポートフォリオの資料の活用を促しており、「保健師活動指針」や地域アセスメント、事業の展開図などの記載方法の資料などを参考にしながら、実習での学びが行えており、ある程度の活用はできていると考える。

しかし、実習以外での学びへの活用が不十分であることから、ポートフォリオに綴る資料についてのアナウンスを徹底する、2年次や3年次でもポートフォリオを活用した講義・演習を行うなど、さらなる工夫・改善が必要である。

今後は、ポートフォリオの資料を集めていく段階で確認することで、実習以外でも、ポートフォリオを活用した学びが行え、自主的な学びや実践力の強化につながるツールとして活用できるような方策を検討していく。

---

参考文献

---

Michelle Moseley. (2018). Fit to practice ? Assessment of student specialist community public health nurses, *Journal of Health Visiting* , 6(7), 340–346.

---